

稲作情報 No.4

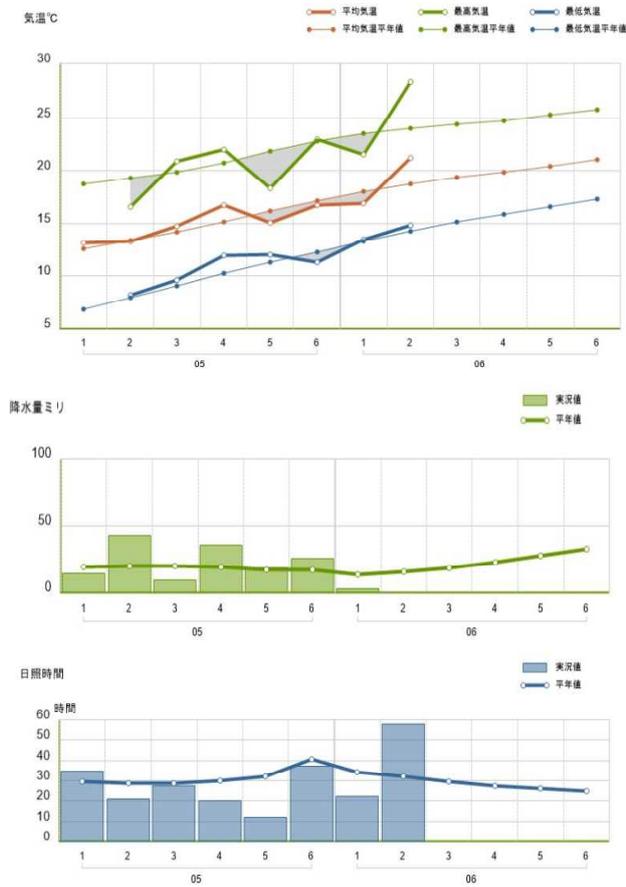
発行日: 令和7年6月13日
発行: 仙北地域振興局農林部農業振興普及課

～適切な水管理により分けつ発生を促進しましょう～

1 気象経過と今後の気象予報

これまでの気象経過(アメダス大曲)

図1 半旬ごとの気象経過(秋田県農業気象システムより引用)



向こう1か月の気象予報(6/14~7/13)

- ・仙台管区気象台より令和7年6月12日に発表された1か月予報によると、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- ・平均気温は高い確率が80%で、週別の気温は1週目(6/14~6/20)が高い確率が80%、2週目(6/21~6/27)が高い確率が70%、3~4週目(6/28~7/11)は高い確率が60%です。
- ・降水量は東北日本海側で平年並または多い確率がいずれも40%です。

図2 東北地方 1か月予報(出典:気象庁HP)

気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)			
気温	東北地方	向こう1か月 06/14~07/13	10% (低い) 10% (平年並) 80% (高い)
		1週目 06/14~06/20	10% (低い) 10% (平年並) 80% (高い)
		2週目 06/21~06/27	10% (低い) 20% (平年並) 70% (高い)
		3~4週目 06/28~07/11	10% (低い) 30% (平年並) 60% (高い)
降水量	東北日本海側	向こう1か月 06/14~07/13	20% (低い) 40% (平年並) 40% (高い)
	東北太平洋側	向こう1か月 06/14~07/13	30% (低い) 40% (平年並) 30% (高い)
日照時間	東北日本海側	向こう1か月 06/14~07/13	40% (低い) 30% (平年並) 30% (高い)
	東北太平洋側	向こう1か月 06/14~07/13	30% (低い) 40% (平年並) 30% (高い)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 作業進捗状況および生育概況

仙北管内の田植え作業の盛期は5月25日で平年より1日遅く、終期は6月1日(同差遅1日)でした。6月10日の定点調査結果(あきたこまち、10地点平均)は、草丈は22.9cmで平年より短く(平年比92%)、茎数は99本/m²で平年より少なく(同比71%)、葉数は5.5葉で平年より少なく(同差-0.4葉)になりました。

5月4半旬～6月1半旬の気温は平年より低く、日照時間は少なくなりました。また、田植え日翌日からの移動平均気温の推移(図3)では、5月17日以降に田植えしたほ場では平年より低く経過したことから、活着までに時間を要したことで葉数の進展や分けつ発生が緩慢になったと考えられます。

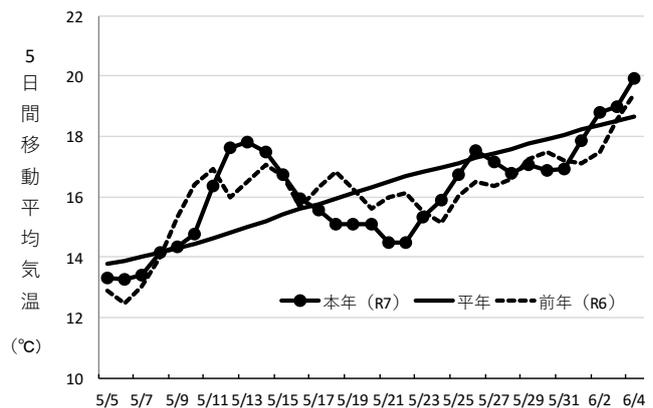


図3 田植え日翌日から5日間の移動平均気温の推移
(アメダス：大曲)

3 当面の技術対策

(1) 分けつ発生を促進させる水管理の徹底

茎数の少ないほ場では6月中に有効茎を確保するよう、分けつ発生を促進するための浅水管理を行いましょ。

分けつの発生は日平均水温23～25°Cで、気温の日較差が大きい場合に促進されます。水温と地温を高め日較差を大きくするため、かん水は水温の低い早朝に短時間で行い、日中は止水で浅水管理とします。

また、本年は表層はく離やアオミドロ等が発生しているほ場が多く見られます。

これらの発生によって地温や水温の上昇が妨げられ、生育抑制に繋がることから、対策として、気温の低い早朝や雨の日に水の入れ替えを行いましょ。

この他、異常還元によるワキが発生しているほ場では一時的に落水(数日間)してガス抜きをすることで、稲体を健全に保ちましょ。

(2) 目標茎数を確保したら中干し開始

あきたこまち(目標収量570kg/10a)の目標穂数は415本/m²です。目標穂数と同程度の茎数を確保したら中干しにより、無効分けつの発生を抑制します。

中干しの実施期間は7～10日程度とし、田面に亀裂が1～2cm入り足跡が付く程度にしましょ。また、落水しにくいほ場や異常還元ほ場では中干しに併せて溝切り等を行い、排水を図りましょ。

幼穂形成期に土壤水分が不足すると1穂粒数の減少を招くので、中干しは幼穂形成期前に終了しましょ。

また、中干し後の急激な湛水管理は根を傷める可能性があります。間断かん水を行い、土壤へ水分と酸素を交互に供給しましょ。

(3) 葉いもちの防除について

葉いもちの感染時期及び感染量はやや少ない予報です。

補植用余り苗は、いもち病が発生しやすく周辺ほ場への伝染源になります。ほ場に放置されている余り苗は、直ちに泥に埋めて処分してください。



葉いもち防除として箱施用剤または側条施用剤を使用していないほ場では、感染苗の持ち込み等により早期に本田で発病する可能性があります。

葉いもち防除として箱施用剤や側条施用剤を使用しなかった場合は、オリゼメート粒剤(2kg/10a)または、ルーチン粒剤(1kg/10a)を散布します。散布時期は移植栽培では6月15日頃(6月12～18日)、直播栽培では6月23日頃(6月20～25日)に遅れずに散布してください。

また、水面施用剤は湛水状態で田面に均一に散布し、散布後4～5日は入水せず、7日間は落水や掛け流しは行わないでください。

(4) 斑点米カメムシ類の防除対策

斑点米カメムシ類(第1世代)の発生時期はやや早く、発生量は平年並の予報です。

斑点米カメムシ類の主要種であるアカスジカスミカメの繁殖地となる農道や畦畔、休耕田、雑草地などの除草は6月上旬から出穂する15～10日前まで数回行いましょう。

また、一発処理除草剤の処理時期の遅れなどにより水田内に雑草が多い場合は、水田内の雑草をよく観察し、草種に応じた中・後期除草剤を適期に散布してください。

～秋田米栽培情報発信LINE始めました！～

水稻栽培に関する情報を発信しています。

秋田県農林水産部水田総合利用課

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/suiden>



友達追加は
こちらから